山口県

市指定無形民俗文化財

岩戸神楽

岩戸の舞保存会

［出演者］

羽仁　勇人（舞／荒神）
林　優佑（舞／荒神）
末弘　隆文（舞／思兼）
山根　文男（太鼓）
山下　芳美（篠笛）
間田　賢三（篠笛）
内田　望（銅拍子）

［行う時期・場所］
10月中旬
熊野神社 体育の日の前夜、秋の例祭
（山口県山口市小郡）

「岩戸の舞保存会」は昭和51年に結成し、山口市小郡の熊野神社に奉納する岩戸神楽の保存伝承のため、現在まで33年活動を続けています。

「岩戸の舞保存会」には現在大人22名、小人16名の38名が所属し、練習は秋祭りの約1か月前から熊野神社で行っています。氏子中の子供が舞子となりますが、高度な舞のみ大人があたります。

岩戸神楽の由来は定かではありませんが、社殿を再建した文禄元年（1592）に始まったと伝えられています。今日では「岩戸の舞」「チャンチキ舞」と呼ばれ、地元の方々に親しまれています。神楽は「御神楽」九座、「岩戸神楽」七座の全十六座からなり、「天の岩戸」の神話に基づき神々を個性的に表現していますが、演劇的な動きや対話などはなく、とりもの採物によってそれらを印象づける程度です。神楽は山口県内に多数ありますが、この岩戸神楽と同様のものは四か所に伝承されています。

今回は、全十六座の中から、「荒神」と「思兼」をご披露いたします。「荒神」は天照大神が岩戸に隠れるきっかけとなった粗暴な行為を行う素戔嗚尊を表した全十六座の中で最も勇壮な舞です。また「思兼」は岩戸に隠れた天照大神を誘い出す方法を提案した思兼神を表した舞です。